

5. 埋め立て・海について

Q1 海を再生されるために処分された魚はどこへいったのですか。

A1 仕切り網の中で捕獲された規制値以上(メチル水銀0.3ppm)の汚染魚は、セメントで固めて2500本以上のドラム缶に詰められ、現在資料館駐車場となっている埋立工事時の余水処理施設周辺の地下に埋められています。その場所には当時の様子が分かる写真が掲示されています。

Q2 きれいな海に戻るまで、どれくらい時間がかかったのですか、また、現在漁師さん達は、どんな活動をされているのですか？

A2 1974年、熊本県は水俣湾に仕切り網を設置し、1977年から水俣湾を埋め立てる工事を開始し1990年に完了、1997年に「水俣湾の安全宣言」を行って仕切り網を全て撤去しました。仕切り網設置から撤去まで23年の年月がかかりました。

また、現在、漁師さんたちは、マダイ、ヒラメ、クルマエビ、カサゴなどの稚魚の放流、海底の清掃・耕耘、産卵場や稚魚の育成場となる「海草の森」の造成など、漁獲資源を増やすための活動を行っています。

Q3 現在の水俣湾の様子

水俣の現在の漁業の様子、また、魚の状況。

水俣の人は今は安心して魚を食べているのか

A3 現在、水俣湾で捕れる魚の平均水銀値は、国の定めた暫定基準(総水銀0, 4ppm、メチル水銀0, 3ppm)を下回っています。1997年7月には、熊本県知事が安全宣言を行い操業が開始されており、その後も水銀の調査は続けられ、安全であることが確認されています。

また、サンゴの生息が確認され、きれいな海になっていますが、魚がたくさん獲れた豊穡の海には戻りません。一度壊れた自然を取り戻すことはとても難しいのです。

Q4 どうやって有機水銀を取り除いたのか。

どうやって海をきれいにしたのか。

水銀をどうやって埋め立てたのですか(方法)

A4 埋立区域を鋼矢板セルで囲んで護岸を造り、カッターレスポンプ浚渫船で総水銀25ppm以上の水銀を含んだヘドロを吸い上げて護岸内に埋め立てました(大きい掃除機で吸い上げるイメージ)。また、水俣湾内の汚染魚は、漁獲してドラム缶にコンクリートと一緒に詰めて、埋立地に埋められました。埋立後は、遮水シートで保護してその上に山土を盛り土しました。

Q5 水俣病にかかった人は、病気の他に苦しいことはどんなことか。

A5 病状と共に辛かったのは、いじめや差別であるといわれます。

Q6 埋め立てられたヘドロは今後大丈夫なのか。

A6 熊本県の水俣湾埋立地護岸等の検討委員会では、現在のところ問題はないとされていますが、護岸に使用された鋼矢板セルの耐用年数、大地震時の液状化現象や護岸の崩壊など課題はあります。

Q7 ヘドロ処理のあり方や環境復元あり方について対する疑問の声はどのようなものか。

A7 埋立工事がはじめられた 1970 年代には、工事によって海が攪拌されると水銀ヘドロが巻き上がり紫外線等によってメチル化が進むという批判がありました。熊本県は、埋立工事を環境復元と位置付けていますが、汚染のないきれいな海に戻すことはできていない、つまり環境は復元されていないという批判もあります。また、埋立地のヘドロは、水銀除去処理を行うべきとの声もあります。

Q8 魚は汚染されているとみ分けられるのか。健康な魚も処分されたのか。

A8 海を泳いでいる魚について、汚染されているかどうか見分けることはできません。一網打尽に漁獲して処分されたと思います。

Q9 埋立地は水俣の何%か。

A9 水俣の面積:16,287ヘクタール 埋立地の面積:58.2ヘクタールで、面積比で0.357%です。